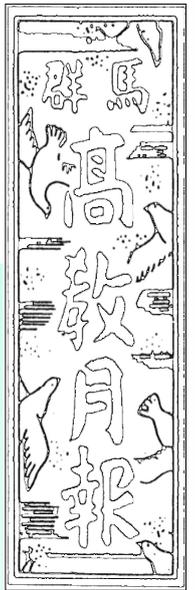


高校教職員ボウリング大会

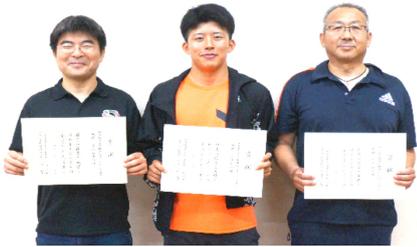
大泉高校が安定のチーム力で大会を制す



前橋市大手町 3-1-10
 群馬高教組
 027-231-2784
 ghtu@educas.jp
 http://www.ghtu.org/



6月29日(土)、第21回群馬県高校教職員ボウリング大会が、エムビルボウルで開催されました。参加は5チームをこななめでしたが、お子さんの参加もあり、笑顔があふれる楽しい一日となりました。個人入賞では大泉の新井さんと石原さんの激しいラウンドバトルが繰り広げられ、僅差で新井さんが優勝となりました。団体の部でも、マライシヨビと相澤さんの総合力を発揮した大泉チームが優勝しました。来年度も趣向を凝らした賞品や参加賞を用意して開催する予定です。全支部から声かけ合って集っていただけるよう、たくさんの方々の参加をお願いします。



団体優勝
大泉チーム

団体

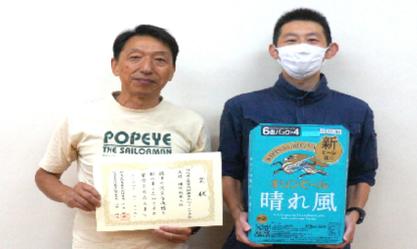
優勝	大泉チーム	906 P
準優勝	女性チーム	778 P
3位	安総チーム	723 P



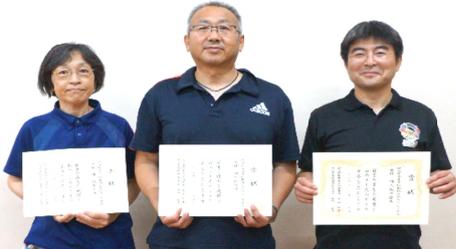
団体準優勝
女性チーム

個人

優勝	新井民夫さん(大泉)	329 P
準優勝	石原靖久さん(大泉)	322 P
3位	大隅久仁代さん(西邑楽)	313 P



団体第3位
安総チーム



個人入賞
右から石原さん
新井さん
大隅さん

6月25日、米兵による性的暴行事件が報道で表面化した。政府と検察・沖縄県警は、「プライバシー」を理由に起訴から3か月経っても県に伝えず、その後の事件が相次いだこともわかった。官邸の政治的圧力が働いたと言わざるを得ない。日米地位協定の見直しを求める県民世論を無視し、「戦争する国」に「進捗する政府の暴走は手段を採ばない。選挙や国民主権よりも、政府の都合が優先している。

「自衛隊の急激な配備拡張で県民は強い不安を抱いている。今の現状は無念の思いを残して犠牲になられたみ霊を慰めることになっているのか」と嘆いた。

沖縄では6月16日の県選で自公が過半数を獲得した後、6月23日の慰霊の日を迎えた。日米両軍と民間人合わせて約20万人が犠牲になった地上戦の体験者からは「残飯拾いで飢えをしのいでやっと生きてこられた。その体験を二度とたたくないし子や孫にもさせたくない。戦争は、ガザやウクライナを見ても余りにひどすぎる。巻き込まれるのは住民だ」、「自衛隊基地が増えて、沖縄が第二次世界大戦の時と一緒の立場におかれている。真っ先にやられるのは沖縄だ」との声が上がっている。玉城知事も「平和宣言」の中で

選挙とは？
国民主権とは？

平田教育長との懇談

一本化された入試の採点やBYOD、非常勤講師問題を訴える



6月27日(木)の午後、平田郁美教育長と高教組の水田委員長、神保副委員長、萩原書記長との懇談が県庁教育長室にて行われました。毎年恒例の行事ですが、教育について自由に懇談でき、また組合の要望を教育長に直接伝えられる貴重な機会となっています。三人の発言要旨を中心に紹介させていただきます。

水田委員長

昨年度から入試が前期後期一本化されたが、問題点がある。実業高校では5教科の教員が2〜3人で記述問題に対応するため採点時間が長時間に及ぶ。コロナ等で人数が減る場合もあり、現実にあった。勤務時間も採点が続

いたが終わらず、生徒が登校している日にも採点をせざるを得なかった。問題の根本は記述問題が多すぎることである。

採点ソフトを導入する予定だそうだが、記述問題の採点に関しては時間短縮につながらない。期末試験で試しに採点ソフトを使ってみたが、読み取

りの精度が悪く正解が×になり手作業で直すことも多かった。解答用紙の読み取りの際に紙詰まりで解答用紙が破損したら気をもむ。エラーは読み取りソフトを導入したから安心というものではない。問題形式の根本的な改善が必要である。

また、入試の日程が卒業式に近く、気をつかう作業を同時進行で行う状況も改める必要がある。「教育長 私も大学でテストの採点をしてきたが、記述は部分点の確認など答案を見直すのに手間がかかる。採点ソフトは全部の答案をめぐりかえす必要がない分、楽になる。採点ソフトはあくまで採点の支援のためのものという認識である。」

(包括外部監査の結果を受けて) 非常勤講師の付随業務に対して適切な賃金の支払いをという指摘があったが、待遇改善・教員の確保という観点からも改善を図ってほしい。特に芸術科・家庭科・理科など配慮すべきである。外部からの監査は教育現場の視点とのズレもあるの

で組合や現場の要望・声を大事にしてほしい。「教育長 教育委員会としても受け入れるべき指摘は受け入れるが、教委としての主張もしている。非常勤職員の実態調査については五教科以外も考えている。」

「神保副委員長 私からは、BYODについて、現場の状況を説明しました。現2年生までは一律にICT端末が県より無償貸与されてきましたが、今年度の1年生からは自身で端末を購入し、それを学校に持ち込んで授業等で利用すること(BYOD)になりました。県から手順として示されたのは、生徒は5月中に購入し、各校で学校のメニューに接続できるようにするための設定作業を6月に実施するというものでした。また、その際、マニュアルをもとに生徒自身が行うことになっていました。しかし、学校現場ではその設定作業を行うことができず、生徒は一部であり、多くの生徒は自身で行うことが困難な状況であるこ

とから、情報係や情報機器に詳しい先生方が中心となって一台一台の端末を設定しているというのが現状です。

冒頭で設定作業が教員の大きな負担になっていることを訴えると、教育長や同席していた人事課長は、「生徒自身が行うはずですよ」と確認してきました。一部の学校ではほとんどが設定済みであるという情報も入っていたようです。また、学校の授業1コマ分を設定作業に充てているのだからその時間できるという認識を持っていたようです。当初から生徒が自力でできると思えなかったたので、この反応に

はとても驚きました。私の勤務校や水田委員長の勤務校の現状、また、個々の端末がそれぞれ異なっていたり、メニュー接続の際の待ち時間等もあったりということを伝えると、ようやく現状を理解していただき、担当の係に伝えていただけるということになりました。仕組みを作ったから、そのように進むと思われていることがありますが、現状をしっかりと伝えることの大切さを改めて感じました。「教育長」PCは事前のアンケートでは4〜5万円が多かったが、実際はそれより上のモデルが多かったのは想定外

萩原書記長 前年度一本化された高校入試の課題として、英語の得点分布グラフだけが二瘤ラクダのような歪な形になっている点に触れたところ、中学段階での学習内容に帰するところが大きく、かつて数学がそうであったとの問題意識は確認できた。最後に教育長に三つの質問をぶつけてみた。

Q1) 昨年度の非常勤講師の雇い止めに関する要望書には目を通していただけましたか?
A1) もちろんです。
Q2) 教員採用試験の倍率低下についてどう思いますか?
A2) 数字が下がったのは受験する若年層の分母が減っているからで、これは仕方ないが、それよりもどんな人が教職を目指すのかが重要、つまりは質を重視したい。
Q3) 教職員の処分についてどうお考えですか?
A3) 遺憾としか言えない。
「西村」スクールロイヤーの導入やクレマー対応の電話機などは前向きに検討したいので、要望していただくのがありがたい。
教育長懇談は4回目になるが、交渉や要請と異なり相手の違いに未だに戸惑う。意外とおしゃべり好きで話題が膨らみ過ぎ貴重な時間が割かれてしまつこともしばしば。視察の機会も少ないであろう教育長に、もう少し現場の様子を伝えれば良かったと反省している。



西村学人課長と羽鳥総務課次長も同席しました